

2026 年 9 月 24 日

ジェイアイ傷害火災保険株式会社

2026 年度「災害不安に関するアンケート」結果を公表

～5 年間のデータから見る災害への不安と防災意識の変化～

水災への不安が 1 か月で急上昇、保険料高額化への不安は 5 年前から唯一増加
一方、防災に「取り組めていない」と回答した割合は 5 年間ほぼ変わらず

調査期間：2026 年 7 月 15 日～7 月 16 日、2026 年 8 月 25 日～8 月 26 日

自然災害への不安や保険に対する意識は、この 5 年間でどのように変化したのでしょうか。

近年、地震や豪雨などの自然災害が各地で発生しており、火災保険で対応する事故のうち、4 割以上※が自然災害を原因としたものとなっています。

ジェイアイ傷害火災保険株式会社（代表取締役 兼社長執行役員：大山恵一）は、防災の日にあわせて実施した「災害不安に関するアンケート」の結果を公表しました。

2022 年から 2026 年までの調査結果を比較したところ、水災への不安が大きく上昇した一方で、「防災に十分取り組めていない」とする割合は過去 5 年間ほぼ変化がないことが分かりました。

なお、2026 年度は 7 月に第 1 回調査を実施しましたが、その後、令和 8 年熊本地震や千葉県での豪雨などが相次いで発生したことから、災害発生後の回答状況を確認するため、8 月に同様の設問による第 2 回調査を実施しました。

「あなたが不安に思う災害について、あてはまるものをすべてお知らせください」（設問 Q2）では、水災に不安を感じる割合が 2026 年 7 月の 32.7%から 8 月には 40.1%へ急上昇しております。

また、「災害時に建物や家財を補償する保険に対して不安を感じる事柄について、あてはまるものをすべてお知らせください」（設問 Q9）では、「保険料（掛け金）が高額化している」と回答した割合が、2022 年の 18.8%から 2026 年 8 月には 19.4%となりました。保険に関する他の不安項目がいずれも 5 年前と比べて低下するなか、この項目のみ増加しました。

一方、「あなたは、防災について十分に取り組んでいると思いますか」（設問 Q6）では、「全く取り組めていない」「あまり取り組めていない」と回答した割合が、過去 5 年間を通じて 76%から 80%程度で推移しています。2026 年 8 月も 76.2%となり、災害に対する不安を感じる割合が上昇した一方で、防災に取り組めていないとする自己評価には、5 年間で大きな変化が見られませんでした。

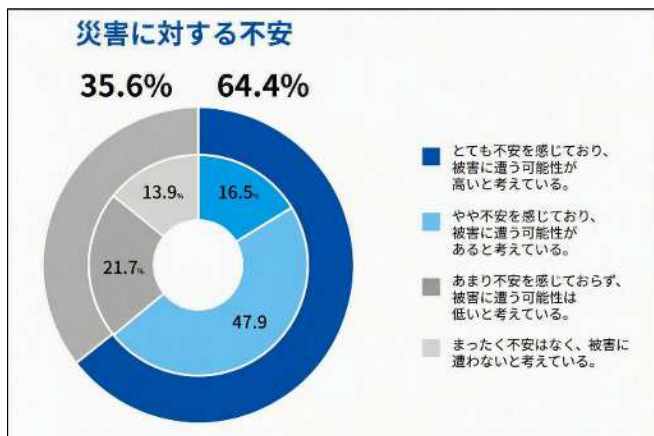
本リリースでは、2026 年の 2 回の調査結果に加え、2022 年以降の 5 年間の推移を比較することで、災害への不安や保険に対する意識、防災への取り組み状況の変化をお伝えします。

アンケートの集計結果は、以下にサマリーを、別紙に全体の調査結果を掲載しています。

※出典：損害保険料率算出機構「火災保険・地震保険の概況／火災保険住宅物件事故種別支払統計表（2020-2024 年度を合計）」

1. 結果：

①災害に対する不安について（設問 Q1）

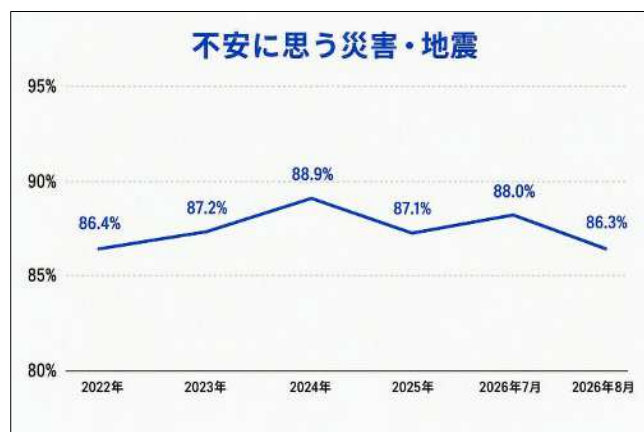
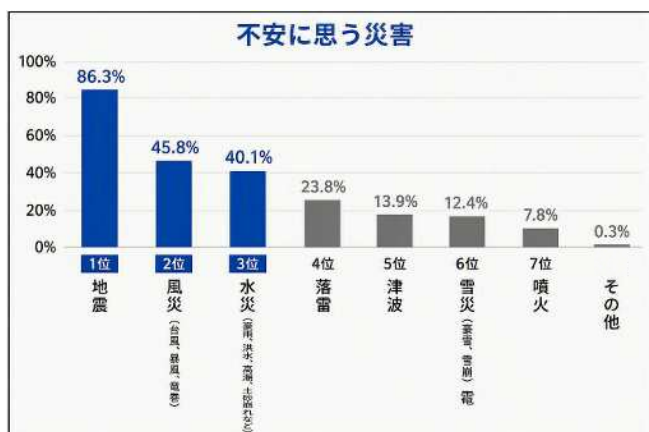


「とても」「やや」を合算すると、64.4%の方が災害に不安を感じています。

2022年から2026年7月までは災害を不安に感じる人の割合が50%後半から60%前後で推移していましたが、2026年8月に取得したアンケート結果では、これまでで最も高い数値でした。

背景には、2026年7月から8月にかけて発生した令和8年熊本地震や千葉県での豪雨等の自然災害の影響があるものと考えられます。実際、災害発生前の7月調査では56.6%だった不安割合が、発生後の8月には64.4%へと約8ポイント上昇しており、災害の多発が人々の不安に影響を与えたことがうかがえます。

②不安に思う災害について（設問 Q2）



大半の方が「地震」への不安を感じており、台風などの風災や豪雨などの水災への不安が続いています。

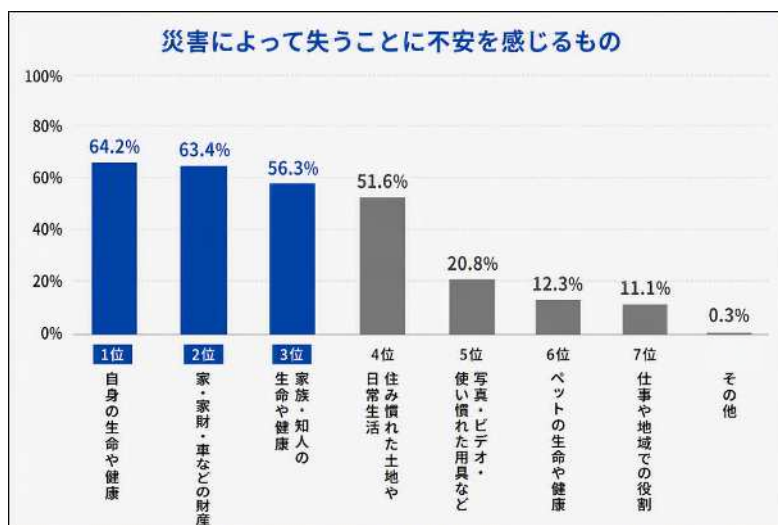
注目すべきは、地震と水災で不安の動き方が対照的だった点です。地震は毎年 80% 台後半で高止まりし、熊本地震後の 8 月でも 86.3% と大きな変化はありませんでした（もともと不安が飽和状態にあるためと考えられます）。一方、水災は 2026 年 7 月の調査で 32.7% まで低下していましたが、千葉県での豪雨を経た 2026 年 8 月の調査では 40.1% へと急上昇しました。

今回の調査では、地震や水災の発生時期とアンケート実施時期が近接していたことが、これらの災害に対する不安割合

の変化に影響した可能性が考えられます。このことから、災害の発生からアンケート実施までの時間的な近さが、当該災害への不安割合に反映されやすい傾向が読み取れます。

（別紙： [【参考 1.】火災保険（住宅物件）の事故件数のうち自然災害による原因が占める割合](#)）

③災害によって失うことに不安を感じるものについて（設問 Q3）



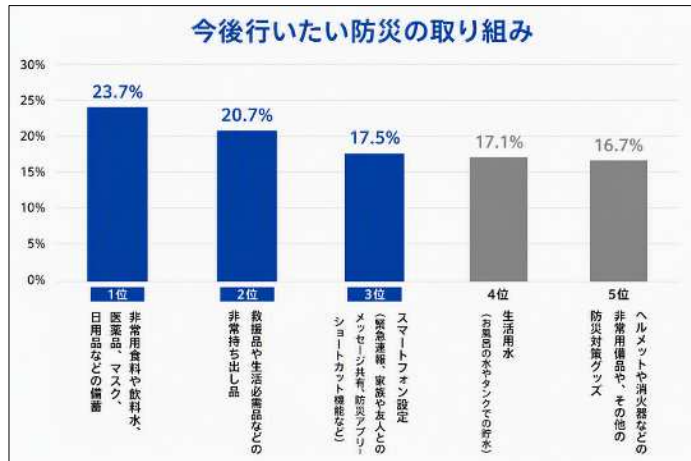
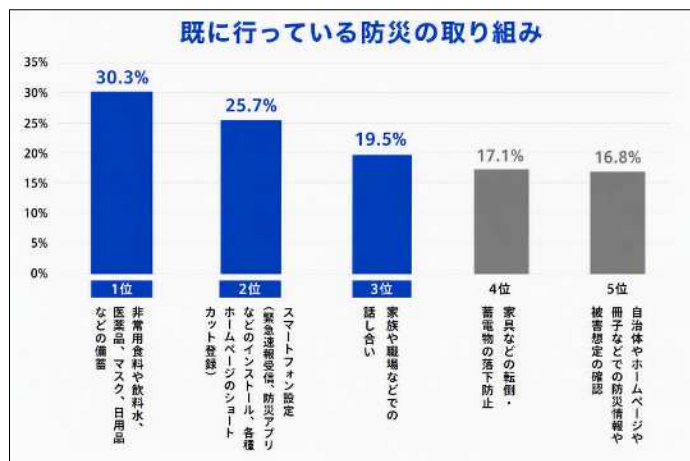
1 位「自身の生命や健康」に続き、僅差で 2 位「家・家財・車などの財産」、3 位「家族・知人の生命や健康」となり、昨年からの順位に変更はありません。

生命・健康と並んで「財産」を失う不安がほぼ同水準で高い結果となり、住まいや家財、車などの財産に対する不安を挙げた方が同程度の割合にのびりました。このことから住まいや家財、車などの財産に対する備えへの関心がうかがえます。

一方で Q6 とのクロス分析では、防災に取り組めている人ほど「住み慣れた土地や日常生活」「写真・使い慣れた用具」「仕事や地域での役割」など、「金銭的な補償だけでは代替しにくいものを失う不安」を強く意識していることも分かりました。

（別紙：設問 Q3【上記設問の Q6.（防災の取り組み）とのクロス分析】）

④既に行っている防災の取り組み・今後行いたい防災の取り組みについて（設問 Q4）



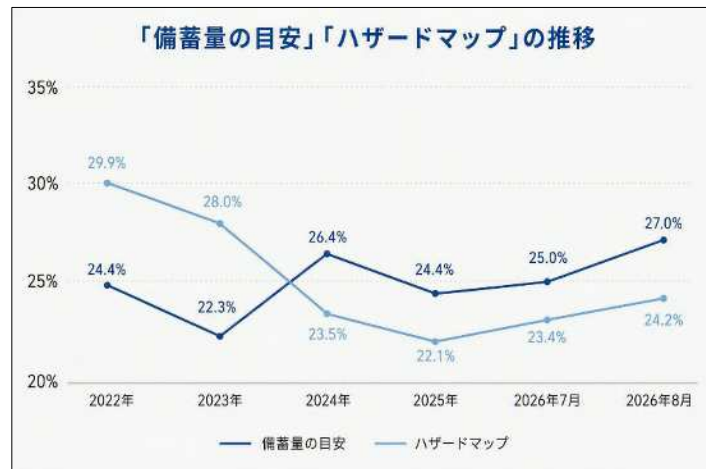
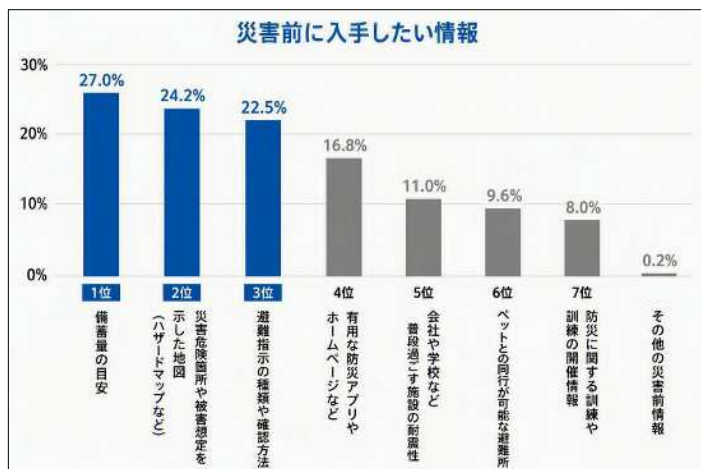
「既に行っている防災の取り組み」「今後行いたい防災の取り組み」いずれも最も多かったのは「非常用食料や飲料水などの備蓄」でした。

「既に行っている防災の取り組み」ではスマートフォン設定や家庭・職場での話し合いが、「今後行いたい防災の取り組み」では貴重品や生活必需品などの非常持ち出し品の準備やスマートフォン設定が上位に入りました。

自然災害はいつどこで発生するか予測できないため、万が一に備えて普段から積極的に取り組んでおくことが大切です。

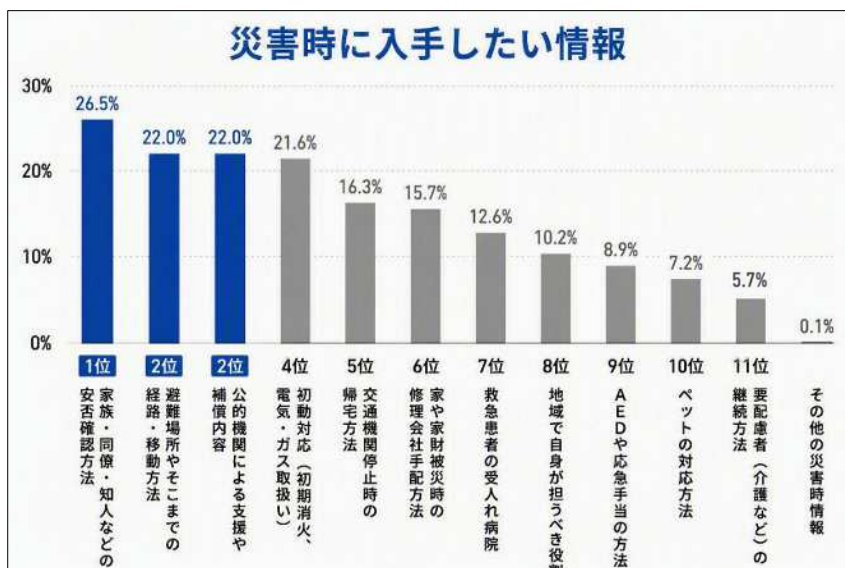
⑤災害に関して入手したい情報について（設問 Q5）

＜災害前に入手したい情報＞



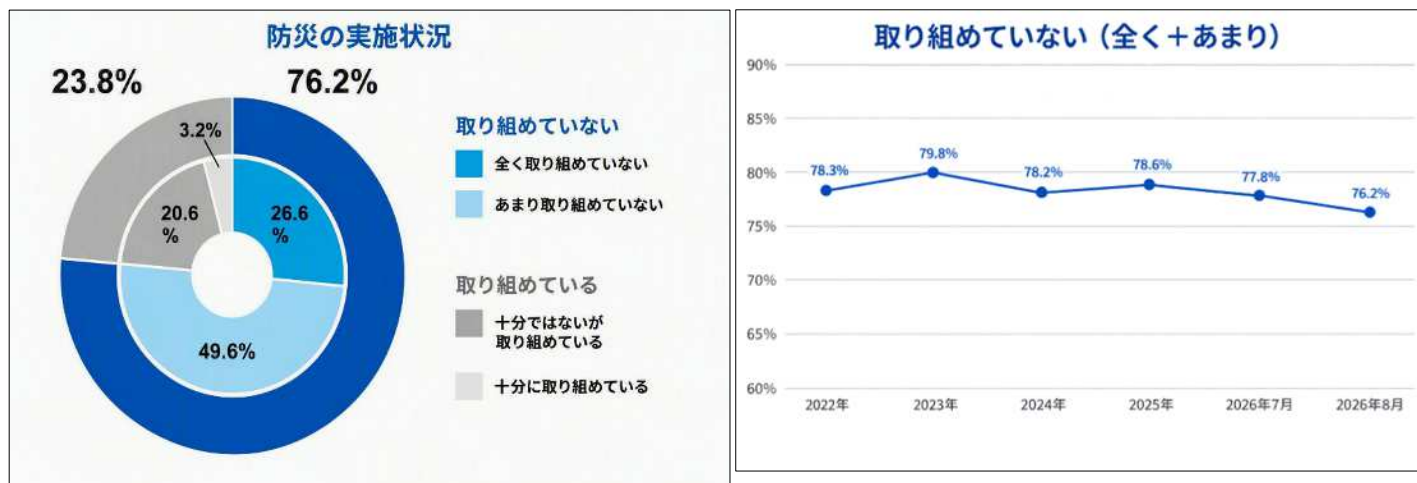
災害前に入手したい情報は「備蓄量の目安」が1位となっています。5年間の推移をみると、当初は「災害危険箇所や被害想定を示した地図（ハザードマップなど）」が最多でしたが、2024年以降「備蓄量の目安」が「ハザードマップ」を上回るようになり、2026年8月には2022年から開始した調査の中で過去最高水準となりました。もっとも、逆転後は「災害危険箇所や被害想定を示した地図（ハザードマップなど）」も「備蓄量の目安」と同様に上昇しており、両者はともに関心が高まっています。災害に関して求められる情報が、「ハザードマップ」など「危険を知る」ための情報から、「備蓄量の目安」など「具体的な備え」に関する情報へと移りつつあることがうかがえます。

＜災害時に入手したい情報＞



災害時に入手したい情報は「安否確認方法」が1位となっています。災害用伝言ダイヤル（171）・災害用伝言板（[web171](http://web171.jp)）、LINEの「安否確認」機能や「Yahoo!防災速報」といったサービス・アプリがありますので、平时のうちにご家族でどれを使うか相談しておくことをおすすめします。

⑥防災の実施状況について（設問 Q6）

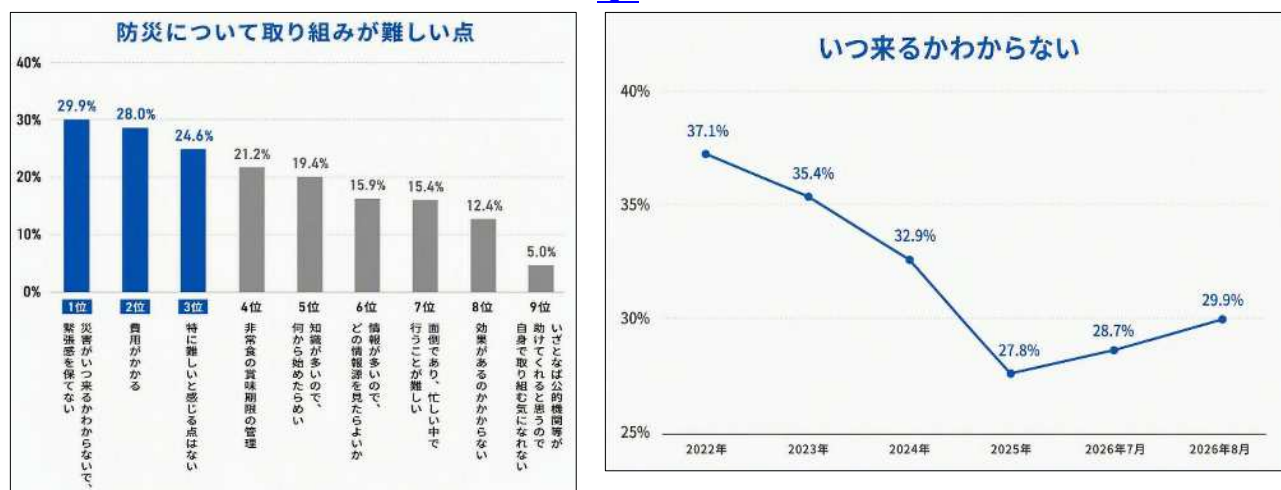


「全く」「あまり」を合わせ「取り組めていない」と回答した方が 76.2%となり、自身の防災の取り組みが十分に進んでいないと感じている回答者が全体的に多く、取組状況に対する自己評価は低い傾向がうかがえます。また、過去 5 年間での推移でも 76%～80%で推移しており、取り組み状況に対する自己評価が低い状況は過去から継続しています。

また、Q1 の 5 年間の推移と照らし合わせると、2026 年 8 月では災害に対する不安が上昇しているにもかかわらず、防災への取り組み状況には大きな変化がないため、災害に対する不安が防災への取り組みにはつながっていないことが分かります。その他、Q1 とのクロス分析では興味深い傾向がみられます。「とても不安」な人の「取り組めていない」割合は 64.8%で、「やや不安」な人よりも低く、不安の強い層で取組割合が高い傾向が見られます。裏を返せば、「やや不安」にとどまる層をいかに具体的な行動へ後押しできるかが重要といえます。

（別紙設問 Q6【上記設問の Q1.（不安度）とのクロス分析】）

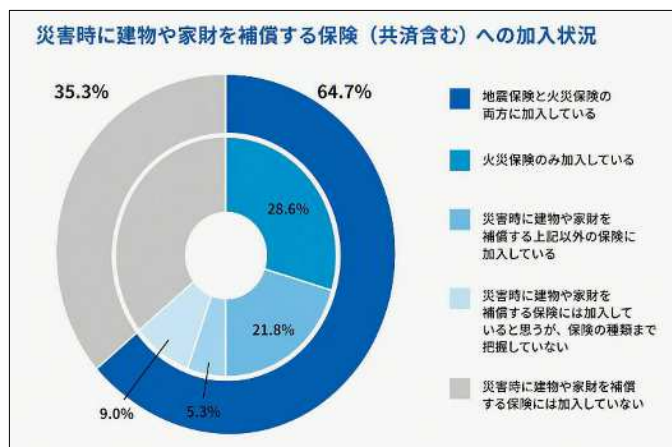
⑦防災の取り組みが難しいと感じる点について（設問 Q7）



防災について取り組みが難しい点として最も多かったのは「災害がいつ来るかわからないので、緊張感を保てない」で、次いで「費用がかかる」でした。

「緊張感を保てない」と回答した割合は、2022 年の 37.1%から 2025 年にかけて減少傾向にありましたが、2026 年の調査では再び増加に転じました。2025 年まで減少傾向にあった要因としては、自然災害が多発している状況で災害を身近に感じるようになった可能性が考えられます。

⑧建物や家財を補償する保険への加入状況について（設問 Q8）



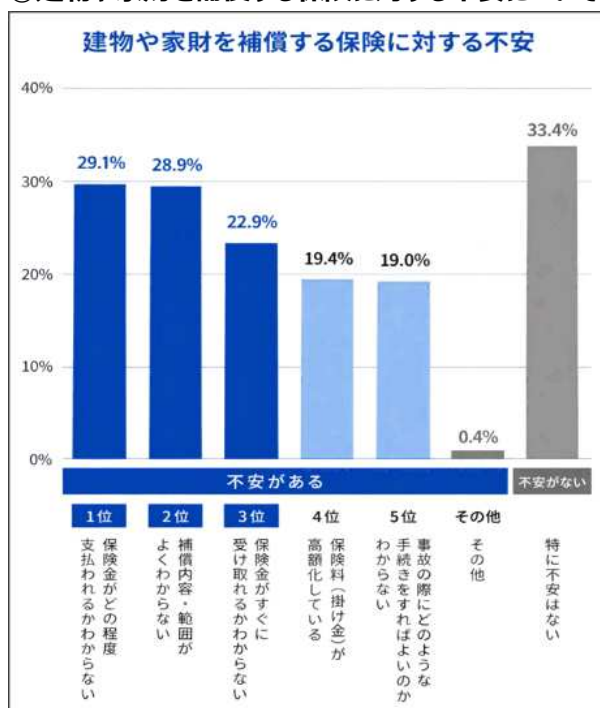
何らかの保険に加入されている方が 64.7%という結果となりました。内訳では「地震保険と火災保険の両方に加入している」と回答した方が 28.6%で最も多く、次いで「火災保険のみ加入」と回答した方が 21.8%となっています。

Q2との照合では、地震保険で補償される地震・津波を不安に思う方でも、「地震」「津波」を原因とする損害を補償する保険に加入されている方は 3 割程度にとどまる結果となりました。

さらに 5 年間の推移をみると、地震を不安に思う方の未加入割合はむしろ増加傾向にあります。地震への不安が高止まりする一方で地震を不安に思う方の保険の加入割合が増加していない状況がみられます。

（別紙設問 Q8【上記設問の Q2.（不安に思う災害）とのクロス分析】）

⑨建物や家財を補償する保険に対する不安について（設問 Q9）



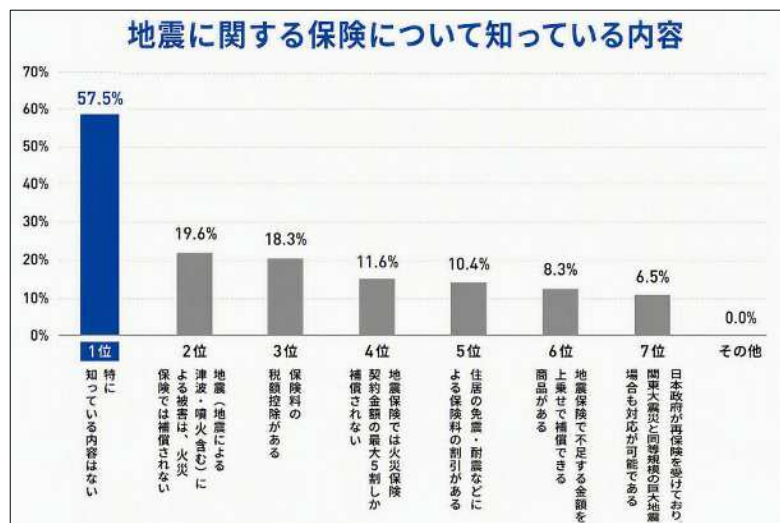
「特に不安はない」との回答が 33.4%となり、残る 66.6%の方（複数回答）が、保険に対して何らかの不安を感じています。

Q8 の結果と照らし合わせると、建物や家財を補償する何らかの保険に加入されている方が、補償内容や保険金に関して不安を感じています。

また、5 年間の推移をしてみると、保険に対する不安として挙げられた項目は軒並み回答割合が減少している一方、「保険料（掛け金）が高額化している」のみ、回答割合が増加しています。2024 年以降に各保険会社で実施された保険料率の改定により、保険料負担が増していることが影響している可能性が考えられます。なお、2024 年以降の火災保険の保険料率改定では、水災の料率が従来の全国一律から、市区町村ごとの水災リスクに応じて 5 段階に細分化されました。これにより、水災リスクが高いとされる地域では保険料が上昇する場合があります。こうした改定も「保険料の高額化」に対する不安が高まった一因となっている可能性が考えられます。

（別紙設問 Q9【上記設問の Q8.（保険加入）とのクロス分析】）

⑩地震に関する保険について知っている内容について（設問 Q10）



「特に知っている内容はない」が最も高く、57.5%を占めております。

Q8 の結果と照らし合わせると、何らかの保険に加入されている方でも、火災保険では地震リスクが補償されないことをご存知の方は高くても 30%程度にとどまっています。災害への不安が高まるなか、保険加入者においても地震保険への理解が必ずしも十分とはいえない実態が明らかとなりました。適切な備えにつなげるためには、地震保険の役割や補償範囲に関する情報発信の充実が求められます。

（別紙設問 Q10【[上記設問の Q8.（保険加入）とのクロス分析](#)】）

* 本調査データの集計結果は以下リンクからもご覧いただけます。

URL：<https://www.jihoken.jp/mado/cat1/8854/>

2. 調査概要：

- ①サンプル数：1,000 名
- ②対象：20 代～60 代 各 200 名を以下の全国 10 地域において人口比で設定
北海道、東北、北関東・甲信、南関東、北陸、東海、近畿、中国、四国、九州・沖縄
- ③方法：インターネット調査
- ④期間：2026 年 7 月 15 日～7 月 16 日、2026 年 8 月 25 日～8 月 26 日
- ⑤設問：10 問（上位表示の項目に回答が偏らないよう質問時に項目をランダムに表示）

3. 利用条件：

当記事の内容は、出典元として「ジェイアイ傷害火災保険（株式会社）」を明記いただける場合に限り、転載が可能です。

【本件に関する報道関係者様からのお問い合わせ】 下記番号までお問い合わせをお願いいたします
 ジェイアイ傷害火災保険株式会社 経営企画部 TEL：03-6634-4102

以上

2026 年 9 月 24 日発表

ジェイアイ傷害火災保険株式会社
2026 年 8 月 災害不安に関するアンケート集計結果

設問

- [Q1.](#) あなたは、災害に不安を感じていますか。
- [Q2.](#) あなたが不安に思う災害について、あてはまるものをすべてお知らせください。
- [Q3.](#) あなたは、災害によって何を失うことを不安に感じていますか。
- [Q4.](#) あなたが「既に行っている」または「今後行いたいと考えている」防災の取り組みにあてはまるものをすべてお知らせください。
- [Q5.](#) あなたが、災害に関して今後入手したい情報について、あてはまるものをすべてお知らせください。
- [Q6.](#) あなたは、防災について十分に取り組んでいると思いますか。
- [Q7.](#) 防災の取り組みについて、あなたが難しいと感じる点は何ですか。あてはまるものをすべてお知らせください。
- [Q8.](#) あなたは、災害時に建物や家財を補償する保険（共済含む）に加入していますか。
- [Q9.](#) あなたが、災害時に建物や家財を補償する保険に対して不安を感じる事柄について、あてはまるものをすべてお知らせください。
- [Q10.](#) 地震に関する保険について、あなたのご存知の内容にあてはまるものをすべてお知らせください。

Q1. あなたは、災害に不安を感じていますか。(n=1,000)

とても不安を感じており、被害に遭う可能性が高いと考えている	16.5%	64.4% 不安が多い
やや不安を感じており、被害に遭う可能性があると考えている	47.9%	
あまり不安を感じておらず、被害に遭う可能性は低いと考えている	21.7%	35.6% 不安が少ない
まったく不安はなく、被害に遭わないと考えている	13.9%	

【上記設問の年代別分析】

		不安が多い			不安が少ない		
		合計	とても不安を感じており、被害に遭う可能性が高いと考えている	やや不安を感じており、被害に遭う可能性があると考えている	合計	あまり不安を感じておらず、被害に遭う可能性は低いと考えている	まったく不安はなく、被害に遭わないと考えている
1 位	60 歳以上 70 歳未満	67.5%	15.5%	52.0%	32.5%	20.5%	12.0%
2 位	30 歳以上 40 歳未満	66.0%	16.5%	49.5%	34.0%	23.0%	11.0%
3 位	50 歳以上 60 歳未満	66.0%	13.5%	52.5%	34.0%	27.0%	7.0%
4 位	40 歳以上 50 歳未満	64.5%	18.5%	46.0%	35.5%	18.5%	17.0%
5 位	20 歳以上 30 歳未満	58.0%	18.5%	39.5%	42.0%	19.5%	22.5%

Q2. あなたが不安に思う災害について、あてはまるものをすべてお知らせください。

(n=843 ⇒Q1.で「まったく不安はない」と回答した人を除く。複数回答)

1 位	地震	86.3%
2 位	風災（台風、暴風、竜巻）	45.8%
3 位	水災（豪雨、洪水、高潮、土砂崩れなど）	40.1%
4 位	落雷	23.8%
5 位	津波	13.9%
6 位	雪災（豪雪、雪崩）、雹（ひょう）災	12.4%
7 位	噴火	7.8%
	その他	0.3%

【上記設問の地域別分析】

	風災 （台風、 暴風、竜 巻）	水災 （豪雨、 洪水、高 潮、土砂 崩れな ど）	雪災 （豪雪、 雪崩）、 雹（ひよ う）災	落雷	地震	津波	噴火	その他
北海道	30.3%	36.4%	45.5%	21.2%	90.9%	15.2%	6.1%	3.0%
東北	54.2%	54.2%	35.6%	28.8%	79.7%	16.9%	13.6%	0.0%
北関東・甲信	47.0%	37.9%	15.2%	34.8%	84.8%	1.5%	9.1%	0.0%
南関東	41.2%	35.6%	7.2%	26.8%	86.8%	10.4%	12.4%	0.4%
北陸	39.5%	50.0%	39.5%	13.2%	92.1%	21.1%	0.0%	0.0%
東海	52.0%	38.0%	5.0%	19.0%	90.0%	23.0%	2.0%	0.0%
近畿	50.3%	38.6%	6.2%	21.4%	87.6%	15.9%	2.8%	0.0%
中国	34.1%	56.8%	18.2%	15.9%	90.9%	9.1%	4.5%	0.0%
四国	41.7%	25.0%	8.3%	20.8%	87.5%	16.7%	4.2%	0.0%
九州・沖縄	52.0%	42.2%	3.9%	23.5%	78.4%	15.7%	10.8%	1.0%

Q3. あなたは、災害によって何を失うことを不安に感じていますか。あてはまるものをすべてお知らせください。

(n=843 ⇒Q1.で「まったく不安はない」と回答した人を除く。複数回答)

1 位	自身の生命や健康	64.2%	生命や財産
2 位	家・家財・車などの財産	63.4%	
3 位	家族・知人の生命や健康	56.3%	
4 位	住み慣れた土地や日常生活	51.6%	それ以外
5 位	写真・ビデオ・使い慣れた用具など	20.8%	
6 位	ペットの生命や健康	12.3%	生命や財産
7 位	仕事や地域での役割	11.1%	それ以外
	その他	0.3%	

【上記設問の Q6.（防災の取り組み）とのクロス分析】

	生命や財産			それ以外		生命や財産	それ以外	
	自身の生命や健康	家族・知人の生命や健康	家・家財・車などの財産	住み慣れた土地や日常生活	写真・ビデオ・使い慣れた用具など	ペットの生命や健康	仕事や地域での役割	その他
十分に組み込んでいる (1.6%)	41.9%	41.9%	41.9%	45.2%	35.5%	16.1%	22.6%	0.0%
十分ではないが組み込んでいる (20.6%)	57.9%	57.4%	59.0%	53.3%	16.9%	11.8%	12.3%	0.5%
あまり組み込んでいない (45.8%)	68.5%	58.2%	67.8%	51.9%	20.0%	11.8%	10.3%	0.4%
全く組み込んでいない (32.0%)	63.9%	52.7%	60.4%	49.7%	24.9%	13.6%	10.1%	0.0%

Q4. あなたが「既に行っている」または「今後行いたいと考えている」防災の取り組みにあてはまるものをすべてお知らせください。（n=1,000 複数回答）

		既に行っている	今後行いたい
① 情報入手・シミュレーション			
1 位	スマートフォン設定（緊急速報受信、防災アプリなどのインストール、各種ホームページのショートカット登録）	25.7%	17.5%
2 位	家庭や職場などでの話し合い	19.5%	16.1%
3 位	自治体ホームページや冊子などでの防災情報や被害想定の確認	16.8%	14.6%
4 位	防災訓練・避難訓練などへの参加	10.4%	10.8%
5 位	その他の情報入手・シミュレーション	0.0%	0.0%
② 備蓄・整理			
1 位	非常用食料や飲料水、医薬品・マスク・日用品など	30.3%	23.7%
2 位	貴重品や生活必需品などの非常持ち出し品	15.7%	20.7%
3 位	ヘルメットや消火器などの安全用具、懐中電灯・ラジオなどの災害対策グッズ	15.6%	16.7%
4 位	生活用水（お風呂やポリタンクでの貯水）	14.5%	17.1%
5 位	ガソリンを常時満タン近くに給油	9.0%	11.6%
6 位	予備電源（太陽電池や電気自動車のバッテリー）	6.7%	13.9%
7 位	ペットの防災関連用品	2.8%	6.0%
8 位	その他の備蓄・整理	0.0%	0.2%
③ 家屋対策			
1 位	家具などの転倒・重量物の落下防止	17.1%	15.9%
2 位	耐震性能の確認や補強	7.1%	11.0%
3 位	ガラスの飛散防止・固定、強化ガラスの取り付け	5.3%	12.7%
4 位	浸水防止（雨戸、土嚢や止水板の準備、排水溝の掃除）	3.3%	9.5%
5 位	その他の家屋対策	0.0%	0.0%
④ 上記以外			
	その他の防災の取り組み	0.0%	0.1%

Q5. あなたが、災害に関して今後入手したい情報について、あてはまるものをすべてお知らせください。

(n=1,000 複数回答)

災害前		
1 位	備蓄量の目安	27.0%
2 位	災害危険箇所や被害想定を示した地図（ハザードマップなど）	24.2%
3 位	避難指示の種類や確認方法	22.5%
4 位	有用な防災アプリやホームページなど	16.8%
5 位	会社や学校など普段過ごす施設の耐震性	11.0%
6 位	ペットとの同行が可能な避難所	9.6%
7 位	防災に関する講演や訓練の開催情報	8.0%
	その他の災害前情報	0.2%
災害時		
1 位	家族・同僚・知人などの安否確認方法	26.5%
2 位	避難場所やそこまでの経路・移動方法	22.0%
2 位	公的機関による支援や補償内容	22.0%
4 位	初動対応（初期消火、電気・ガス取扱い）	21.6%
5 位	交通機関停止時の帰宅方法	16.3%
6 位	家や家財被災時の修理会社手配方法	15.7%
7 位	救急患者の受入れ病院	12.6%
8 位	地域で自身が担うべき役割	10.2%
9 位	AED や応急手当の方法	8.9%
10 位	ペットの対応方法	7.2%
11 位	要配慮者（介護など）の継続方法	5.7%
	その他の災害時情報	0.1%

Q6. あなたは、防災について十分に取り組んでいると思いますか。(n=1,000)

全く取り組めていない	26.6%	取り組めていない 76.2%
あまり取り組めていない	49.6%	
十分ではないが取り組んでいる	20.6%	取り組んでいる 23.8%
十分に取り組んでいる	3.2%	

【上記設問の Q1. (不安度) とのクロス分析】

	取り組めていない			取り組んでいる		
	合計	全く取り組めていない	あまり取り組めていない	合計	十分ではないが取り組んでいる	十分に取り組んでいる
とても不安を感じており、被害に遭う可能性が高いと考えている (14.0%)	64.8%	41.8%	23.0%	35.2%	13.9%	21.2%
やや不安を感じており、被害に遭う可能性があると考えている (42.6%)	76.2%	57.6%	18.6%	23.8%	1.3%	22.5%
あまり不安を感じておらず、被害に遭う可能性は低いと考えている (27.7%)	75.1%	55.8%	19.4%	24.9%	0.9%	24.0%
まったく不安はなく、被害に遭わないと考えている (15.7%)	91.4%	21.6%	69.8%	8.6%	0.7%	7.9%

Q7. 防災の取り組みについて、あなたが難しいと感じる点は何ですか。あてはまるものをすべてお知らせください。

(n=1,000 複数回答)

1 位	災害がいつ来るかわからないので、緊張感を保てない	29.9%
2 位	費用がかかる	28.0%
3 位	特に難しいと感じる点はない	24.6%
4 位	非常食の賞味期限の管理	21.2%
5 位	知識がないので、何から始めたらよいかわからない	19.4%
6 位	情報が多いので、どの情報源を見たらよいかわからない	15.9%
7 位	面倒であり、忙しい中で行うことが難しい	15.4%
8 位	効果があるかわからない	12.4%
9 位	いざとなれば公的機関等が助けてくれると思うので、自身で取り組む気になれない	5.0%
	その他	0.3%

【上記設問の年代別分析】

	で、災害がいつ来るかわからないので、緊張感を保てない	面倒であり、忙しい中で行うことが難しい	費用がかかる	効果があるかわからない	知識がないので、何から始めたらよいかわからない	非常食の賞味期限の管理	情報が多いので、どの情報源を見たらよいかわからない	いざとなれば公的機関等が助けてくれると思うので、自身で取り組む気になれない	その他
60 歳以上 70 歳未満	41.0%	14.0%	25.5%	15.5%	13.5%	20.0%	16.5%	1.5%	0.5%
50 歳以上 60 歳未満	34.0%	17.0%	33.5%	14.0%	18.0%	24.5%	17.5%	5.5%	0.5%
40 歳以上 50 歳未満	28.0%	15.0%	28.0%	9.5%	21.0%	25.0%	18.5%	5.5%	0.0%
30 歳以上 40 歳未満	27.0%	16.5%	30.5%	11.0%	24.0%	21.5%	14.5%	6.0%	0.5%
20 歳以上 30 歳未満	19.5%	14.5%	22.5%	12.0%	20.5%	15.0%	12.5%	6.5%	0.0%

Q8. あなたは、災害時に建物や家財を補償する保険（共済含む）に加入していますか。（n=1,000）

地震保険と火災保険の両方に加入している	28.6%	加入 64.7%
火災保険のみ加入している	21.8%	
災害時に建物や家財を補償する上記以外の保険に加入している	5.3%	
災害時に建物や家財を補償する保険には加入していると思うが、保険の種類まで把握していない	9.0%	
災害時に建物や家財を補償する保険には加入していない	35.3%	未加入 35.3%

【上記設問の Q2.（不安に思う災害）とのクロス分析】

不安に思う災害	地震保険と火災保険の両方に加入している	火災保険のみ加入している	災害時に建物や家財を補償する上記以外の保険に加入している	災害時に建物や家財を補償する保険には加入していると思うが、保険の種類まで把握していない	災害時に建物や家財を補償する保険には加入していない
地震	32.4%	24.4%	4.7%	9.3%	29.2%
風災（台風、暴風、竜巻）	33.2%	28.2%	4.3%	8.1%	26.1%
水災（豪雨、洪水、高潮、土砂崩れなど）	33.9%	24.6%	4.9%	10.7%	25.8%
落雷	40.5%	23.4%	3.9%	9.8%	22.4%
津波	30.0%	19.2%	5.0%	9.2%	36.7%
雪災（豪雪、雪崩）、雹（ひょう）災	34.6%	16.8%	3.7%	15.9%	29.0%
噴火	47.8%	20.9%	3.0%	7.5%	20.9%

Q9. あなたが、災害時に建物や家財を補償する保険に対して不安を感じる事柄について、あてはまるものをすべてお知らせください。（n=1,000 複数回答）

1 位	保険金がどの程度支払われるかわからない	29.1%	不安がある
2 位	補償内容・範囲がよくわからない	28.9%	
3 位	保険金がすぐに受け取れるかわからない	22.9%	
4 位	保険料（掛け金）が高額化している	19.4%	
5 位	事故の際にどのように手続きすればよいかわからない	19.0%	
6 位	その他	0.4%	不安はない
	特に不安はない	33.4%	

【上記設問の Q8.（保険加入）とのクロス分析】

	補 償 内 容 ・ 範 囲 がよくわ からない	保 険 金 が ど の 程 度 支 払 わ れ る か わ か ら ない	保 険 料 （ 掛 け 金 ） が 高 額 化 し て い る	保 険 金 が す ぐ に 受 け 取 れ る か わ か ら ない	事 故 の 際 に ど の よう に 手 続 す れ ば よ い の か わ か ら ない	そ の 他	特 に 不 安 は ない
保険加入状況							
地震保険と火災保険の両方に 加入している（27.2%）	28.3%	35.3%	26.6%	31.1%	21.7%	0.3%	22.7%
火災保険のみ加入している （21.4%）	41.3%	34.9%	20.2%	29.8%	19.7%	0.0%	19.3%
上記以外の保険に加入している （5.3%）	26.4%	41.5%	7.5%	20.8%	18.9%	0.0%	17.0%
加入していると思うが、保険の種 類まで把握していない（8.7%）	43.3%	33.3%	12.2%	27.8%	28.9%	0.0%	20.0%
加入していない （37.4%）	18.4%	17.6%	16.7%	11.0%	13.9%	0.8%	56.7%

【Q9 の 5 年間比較】

	2022 年	2023 年	2024 年	2025 年	2026 年 7 月	2026 年 8 月	5 年差 (2026 年 7 月)	5 年差 (2026 年 8 月)
補償内容・範囲がよくわからない	31.6%	27.6%	31.6%	27.8%	27.6%	28.9%	-4.0%	-2.7%
保険金がどの程度支払われるかわからない	31.7%	28.2%	29.6%	25.8%	26.6%	29.1%	-5.1%	-2.6%
保険金がすぐに受け取れるかわからない	24.2%	21.7%	25.8%	20.8%	19.0%	22.9%	-5.2%	-1.3%
事故の際にどのように手続すればよいのかわからない	22.1%	20.4%	19.3%	19.0%	18.5%	19.0%	-3.6%	-3.1%
保険料（掛け金）が高額化している	18.8%	18.5%	20.9%	19.8%	19.3%	19.4%	0.5%	0.6%
その他	0.3%	0.0%	0.2%	0.1%	0.1%	0.4%	-0.2%	0.1%
特に不安はない	31.8%	32.8%	33.6%	39.8%	38.1%	33.4%	6.3%	1.6%

Q10. 地震に関する保険について、あなたのご存知の内容にあてはまるものをすべてお知らせください。

(n=1,000 複数回答)

1 位	特に知っている内容はない	57.5%
2 位	地震（地震による津波・噴火含む）による被害は、火災保険では補償されない	19.6%
3 位	保険料の税額控除がある	18.3%
4 位	地震保険では火災保険契約金額の最大 5 割しか補償されない	11.6%
5 位	住居の免震・耐震などによる保険料の割引がある	10.4%
6 位	地震保険で不足する金額を上乗せで補償できる商品がある	8.3%
7 位	日本政府が再保険を受けており、関東大震災と同等規模の巨大地震の場合も対応が可能である	6.5%
8 位	その他	0.0%

【上記設問の Q8.（保険加入）とのクロス分析】

保険加入状況	地震（地震による津波・噴火含む）による被害は、火災保険では補償されない	住居の免震・耐震などによる保険料の割引がある	保険料の税額控除がある	地震保険では火災保険契約金額の最大 5 割しか補償されない	地震保険で不足する金額を上乗せで補償できる商品がある	日本政府が再保険を受けており、関東大震災と同等規模の巨大地震の場合も対応が可能である	その他	特に知っている内容はない
地震保険と火災保険の両方に加入している（27.2%）	32.2%	18.2%	37.8%	23.4%	13.6%	9.1%	0.0%	37.1%
火災保険のみ加入している（21.4%）	24.8%	6.9%	14.7%	9.2%	6.9%	6.0%	0.0%	55.0%
上記以外の保険に加入している（5.3%）	13.2%	22.6%	17.0%	20.8%	15.1%	20.8%	0.0%	22.6%
加入していると思うが、保険の種類まで把握していない（8.7%）	16.7%	11.1%	7.8%	8.9%	8.9%	4.4%	0.0%	57.8%
加入していない（37.4%）	7.9%	4.2%	7.6%	2.8%	3.7%	3.1%	0.0%	80.7%

（注）火災保険でも地震火災費用保険金など、被害内容により一部補償される特約がありますが、補償内容が地震保険と比較して大幅に限定されているため、一般的な知識として上記の設問としています。

【参考 1.】火災保険（住宅物件）の事故件数のうち自然災害による原因が占める割合

事故種別	件数	割合	区分
風災・雹（ひょう）災	812,629	26.3%	自然災害 43.4%
雪災	287,872	9.3%	
落雷	222,550	7.2%	
水災	21,203	0.7%	
水濡れ	275,467	8.9%	その他 56.6%
火災・破裂・爆発	38,650	1.2%	
その他	1,436,632	46.4%	
合 計	3,095,003	100.0%	

* 出典：損害保険料率算出機構「火災保険・地震保険の概況/火災保険住宅物件事故種別支払統計表（2020-2024 年度を合計）」

* 上記統計では落雷は自然災害以外に分類されていますが、当調査では自然災害に含めています。

* その他は、盗難、物体の落下、破損・汚損、電氣的・機械的事故等に対する保険金を集計したものです（不明を含みます）。

* 地震保険の事故件数は上記件数に含まれていません。

* 割合に関して小数点以下第 2 位を四捨五入しているため、合計しても必ずしも 100 とはなりませんのでご注意ください。

【参考 2.】補償選択型住宅用火災保険「ieho いえほ」

災害に対して必要な準備は多々ありますが、その一つに保険加入があります。弊社では、お客さまのニーズに応じて、用意された補償項目から必要な補償を選択できるインターネット専用火災保険「ieho いえほ」を取り扱っております。

【参考 3.】地震補償を最大 100%にする「地震危険等上乗せ補償特約」

Q10 の記載の通り、地震保険では火災保険の契約金額の最大 50%までの補償となっています。これでは全壊であっても住宅の再建が困難な場合があり、差額の 50%分の上乗せ補償が可能な商品が東日本大震災後に開発されました。弊社のインターネット専用火災保険「ieho いえほ」では、「[地震危険等上乗せ補償特約](#)」の選択が可能であり、地震補償を最大 100%※にすることができます。

内閣府の「防災情報のページ」によると、東日本大震災で住宅が全壊した場合、住宅再建には平均 2,500 万円もの費用がかかっていました。一方、公的支援として受給できた金額は、善意による義援金を合わせても約 400 万円にとどまり、住宅再建に必要な費用の 16%ほどの金額であったとされています。地震保険の 50%補償では、公的支援金を加えても住宅再建費用には満たない可能性があり、被災後の生活再建のためには地震補償を最大 100%※にできる保険に加入することをおすすめしています。

※最大 100%の補償となるのは、地震保険の保険金額を火災保険の 50%に設定した場合です。

以上